

# 普天間飛行場跡地利用ニュース 6号

平成20年3月 宜野湾市基地政策部基地跡地対策課発行

## NB ミーティングと若手の会の意見交換会を開催しました

平成20年2月26日と3月4日に中央公民館（宜野湾市民会館2F）において、市民のまちづくり勉強会組織である「ねたてのまちベースミーティング（以下 NB ミーティング）」と地権者側の視点からの検討組織である「普天間飛行場の跡地を考える若手の会（以下若手の会）」の意見交換会を開催しました。

意見交換会では、若手の会により作成された「交通」、「公園」に関する2つの提言書を題材とした意見交換が行われました。会の中では、まず若手の会より提言書の内容について説明が行われ、その後NB ミーティングから内容についての質疑や市民の視点からの意見が出されました。

このような意見交換は今後も実施し、地権者と市民が一体となって魅力ある跡地利用の実現を目指していくことが確認されました。



### ■「若手の会が作成した提言書」とは？

若手の会は、普天間飛行場跡地利用に関わる分野別計画の一つである「公園・環境」、「交通」のグループに分かれ、1年間活動を進めてきました。その成果がグループごとに1冊の提言書としてまとめられました。両分野ともに今後も内容を深めていくといった意味合いのもと、パート1としています。

#### 交通編パート1

交通グループの提言書は、「普天間飛行場の地域性と交通を取り巻く現状」についての議論や、近年、環境にやさしい先進的な交通システムとして注目を集めている富山市 LRT（次世代型路面電車）視察会の成果を踏まえて、「公共交通を中心とした域内交通のあり方」についての議論を重ね、現時点での考えとして集約したものです。



#### 公園編パート1

公園・環境グループの提言書は、地権者側の視点から（仮）普天間公園を将来の宜野湾市にどのように活用すべきか、どのような人を対象とした公園であるべきか、具他の方向性としてどのような展開が考えられるかなど、公園・環境グループのメンバーの（仮）普天間公園に対する想いを出し合い、集約したものです。



### ■交通編パート1の内容<提言総括>

- ・整備費用等を考慮すると、LRT（次世代型路面電車）などとともに、バス専用道路（緊急車両の通行は可）の整備を検討することも効果的と考えられる。
- ・交通面からも普天間飛行場があったという歴史を伝えていく必要がある。（現在のフェンスの位置にバス専用道路等新たな公共交通を導入する等）
- ・環境にやさしいLRT（次世代型路面電車）や電気バス等の導入による公共交通サービスの向上はもとより、街なかへの自家用車乗り入れ規制や歩くことが楽しいまちづくり方策についても検討していく必要がある。
- ・見晴らしや観光客の利用を考慮した運行ルートの設定、観光客が楽しめるような工夫等、交通そのものを観光資源としていくことが必要である。
- ・多くのバス停設置や定時性の確保等により一般市民や学生が利用しやすい交通体系を整備し、公共交通を市民の生活の一部にしていく必要がある。このことが自家用自動車利用の抑制に繋がるものと考えられる。
- ・普天間飛行場跡地から周辺地域への交通を分散、集中させる交通拠点の整備が必要である。また、公共交通機関の乗り継ぎ手段は十分に確保する必要がある。（バス⇄バス、バス⇄モノレール、LRT⇄バス、バス⇄自転車等）
- ・コストがかかっても、ユニバーサルデザインを考慮した交通環境を実現する必要がある。
- ・新たな公共交通は、地域住民等の参画により、持続可能なものとし、市民生活の中に定着させていくことが必要である。

環境にやさしく、暮らしに活力を与え、住む人・訪れる人が循環する公共交通を実現させよう！

## ■公園編パート1の内容<私たちの考える(仮)普天間公園>

- ・「平和」をメインテーマに、基地にあるものを保存・活用し、平和の発信地となるような公園としていく(マイナス要素を良い意味で活用する)。
- ・将来的な発展を見据えた施設を取り入れ、様々な側面(経済、環境など)から宜野湾市の発展に寄与するような公園としていく。
- ・平和をメインテーマとしつつ、その要素を取り入れた「自然・歴史・文化」、「スポーツ・レジャー」、「シンボル」をテーマとした施設等を取り入れ、市民・県民・県外からの観光客等の誰でも魅力を感じる公園としていく。
- ・糸満市の「戦時の平和学習」とは差別化をはかり「戦後の基地との関わりの中での平和学習」の場として修学旅行生も訪れるような公園としていく。また返還記念公園として基地に関する記録を残していく。
- ・既存の自然資源を活用するとともに失われた自然を再生させ、緑を中心とした公園づくりを行い、環境配慮型の公園づくりを行うことで環境学習の場ともなる公園としていく。
- ・鍾乳洞等の自然資源や地域の文化財等の宜野湾市独自の資源を活用した公園としていく。
- ・記念写真の場にもなるような、「普天間飛行場・宜野湾市の歴史や物語」、「平和発信というメッセージ」を感じることができるシンボルを取り入れていく(公園だけでなく宜野湾市・沖縄県のシンボルともなるもの)。
- ・一過性のイベントではなく、常時人が呼べる集客力のある公園としていく(子どもたちが気軽に遊べるレジャー施設、あらゆるイベントの誘致、野球やサッカー等のプロチームが使用できる施設など)。
- ・歩道コースや健康関連施設を設置し、健康・長寿にも意識した公園づくりをしていく。

## ◀公園に関する意見交換の概要▶

### 【NB ミーティングからの意見】

- ◆提言書の内容は率直にすばらしいと思った。県民の財産として(仮)普天間公園が成り立っていくには「平和」がメインテーマとなっているのは良いと思う。
- ◆親戚が沖縄に来て、南に行くか北に行くかで宜野湾市とはならないのが現状である中、記念写真の背景となるような公園をつくるというのは良い方法であると思う。
- ◆沖縄の暖かさという特徴を活かして、日本各地から人が集まる長期滞在型の施設をつくるのが良い。また、日本各地の文化が集まり楽しめる公園になってほしい。
- ◆提言を聞いて非常に大きなエネルギーを感じた。通過する人を引き止め、宜野湾市が人を集めるような公園にしてほしいし、我々の小さな意見が統合できる公園となるのが願い・希望・夢である。
- ◆跡地の中には、公園以外に住宅などもつくるという中で、提言書のような公園をつくったら土地が足りるのかと感じた。地権者の生活を考慮して、観光だけでなく産業を取り入れていくことが必要だと思う。



### 【若手の会からの意見】

- ◆パート2や3になっていく中で進化させていかなければならないと思っており、今回は公園のメインテーマを決めたことが大きな成果である。今回の意見交換でもらった意見は、今後検討を進める中で活かしていきたい。
- ◆今後公園のあり方を考えていく中でベースとなり、仮に社会情勢が変化してもゆるがないものを考えてきた。100人いれば100通りの意見が出てくるだろうし、その意見を聞いていると様々なアイデアが生まれてくる。これから考えていく中では、今日のように意見を交わしながらやっていければと思う。

## ◀交通に関する意見交換の概要▶

- 【NB ミーティング】今後の超高齢化社会の中で、普天間は誰でも気軽に使える交通機関がないといけない。跡地全地域一緒ではなくて様々な特徴のある地域があり、それがバスなどでつながっているまちが良い。
- 【NB ミーティング】ぜひ取り入れてほしいのは、LRTをからめながら歩くことが楽しく、安全に過ごせる場所をつくることである。また、ペロタクシーなども取り入れながら、環境にやさしいまちづくりを行うことも必要だと思う。そのような方向にシフトしていければ環境にやさしいまちができるはずである。
- 【若手の会】トランジットモールやペロタクシーは国際通りでもやられているが、公共交通との関わりが重要であり、公共交通から降りた後の移動手段はぜひ取り入れて、今後検討していきたい。
- 【NB ミーティング】跡地利用を考えていく中で、乗用車は入れない方がよい。太陽光エネルギー利用等の環境に配慮した車両しか入れない等、交通規制についても考える必要がある。大きな公園では許可車両以外入れないようになっており、それがまち全体に大きくなったものと考えれば良いのではないかと。
- 【NB ミーティング】提言書は普天間飛行場内の域内交通に特化している内容だが、何で対象を絞ったのか。
- 【若手の会】空港とのつながり等も考えなくてはと最初は考えていたが、対象が広がりすぎてしまうことや、普天間飛行場跡地利用基本方針において跡地内を対象とした先進的な交通システム整備に取り組むことが示されているため、今回は域内を基本に議論を行った。

普天間飛行場跡地利用に関わる情報は、ホームページや情報提供窓口でも提供しています。情報収集や跡地利用に関わる要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用下さい。



◀ホームページ▶ <http://www.city.ginowan.okinawa.jp/>  
◀情報提供窓口▶ 宜野湾市役所 基地政策部 基地跡地対策課  
電話 098-893-4401(直通) FAX 098-892-7022  
Eメール kichi01@city.ginowan.okinawa.jp

